

第1回 第2次石狩市観光振興計画検討会議事録

日 時 平成28年8月3日(水) 午前10時～正午

場 所 石狩市役所庁議室(3階)

出席委員 石狩市企画経済部渉外調整担当 地域振興アドバイザー 吉田 和彦
石狩市農業協同組合 営農部長 大田 富夫
北石狩農業協同組合 厚田支所長 長谷川 司
石狩北商工会 事務局長 尾山 忠洋
一般社団法人石狩観光協会 専務理事 吉田 保雄

欠席委員 石狩湾漁業協同組合 専務理事 和田 郁夫
石狩商工会議所 青年部筆頭副会長 中林 義雄
石狩青年会議所 監事 本間 貴士
一般社団法人石狩観光協会 浜益事務所 三上 正信

事務局 企画経済部産業振興担当部長 百井 宏己
同部商工労働観光課観光担当課長 板谷 英郁
同課観光担当主査 袴田 実・同担当主任 高木 順平
厚田支所地域振興課産業振興担当主査 角田 誠二・同担当 三上 恭平
浜益支所地域振興課産業振興担当主査 菅原 学

議事案件 (1) 会長選任・副会長選任について
(2) 第2次石狩市観光振興計画策定について
(3) 第1次石狩市観光振興計画成果について
(4) 第2次石狩市観光振興計画の具体的な策定について

会 議 結 果 (要点筆記)

1 開会

2 市長挨拶 (代理 企画経済部産業振興担当部長 百井 宏己)

[事務局 百井部長]

- ・今年度は産業関連計画の4計画が改訂の時期となっており、各計画の策定にあたっては、4計画を結びつけながら作業を進めていく必要があると考えている。
- ・第1次の観光振興計画は、かなり具体的な事業まで踏み込んだ作り方をしているが、観光を取り巻く環境は目まぐるしく変わっていくため、第2次計画では、その時々ニーズに的確に対応すべく、方向性や考え方を計画で示すものにしたい。なお、重点

的に取り組む施策については少し、具体的なところまで踏込んで作り込みたいと考えている。

- ・本日、ご提示するものはあくまでもたたき台として捉えていただき、様々な意見を頂戴したい。
- ・スケジュールについては、今秋までに素案をつくり、市民の意見をいただき、年度内に策定したいと考えている。

3 会長・副会長の選任について

以下、事務局案にて承認。また、会議録を公開、内容は要点筆記とする旨、承認される。

会長：石狩観光協会 専務理事 吉田 保雄

副会長：石狩市企画経済部渉外調整担当 地域振興アドバイザー 吉田 和彦

4 第2次石狩市観光振興計画の策定について

事務局（板谷課長）より資料1、2、3を基に説明。

[吉田 和彦 副会長]

- ・私は平成30年度の石狩市厚田区にオープンする道の駅を担当している。物産と観光は両輪で取り組むことが重要であると考えている。
- ・ご提示いただいた計画の基本施策では、「経済的に潤う」「気持ち潤う」など、4つの「潤う」というテーマが掲げられているが、これは重要なことであり、物産や観光は人が滞在し、地域が潤わないと意味が無い。また、気持ちが潤うことは生きがいにもつながる。
- ・基本理念については、計画期間終了後である5年後のビジョンが大切であり、住民や事業者が「すごい!」「ビジョンに向けてがんばりたい!」と思えるものを考えなければいけない。
- ・ビジョンは、環境が変わっても変わるものではない、不変的なものである。

[大田 富夫 委員]

- ・道の駅は冬期間が課題であり、農協でも「とれのさと」で色々と手をつくしているところ。石狩では、一次産品はたくさんの種類があるが、加工品が弱いという課題もある。

[長谷川 司 委員]

- ・農協女性部の集まりでお母さんたちが手作りの加工品を持ってきてくれることがある。生産量は多くはないが、こういったものも販売できたら面白い。

[尾山 忠洋 委員]

- ・厚田のオリジナル産品は飯寿司、浜益には漁師の加工品がたくさんあるが、全ての漁

- ・師が商工会の会員になっているわけではない。
- ・道の駅のオープンをきっかけに地域の事業者において、おもてなしの機運が高まることに期待している。
- ・石狩北商工会は、本年度、経営発達支援計画を策定し、経済産業大臣から認可をもらった。今後、この計画に関連する補助金を活用して取り組みを進めていくが、まず、厚田・浜益区の全世帯にアンケートをとり、事業者が必要とされることを研究していく予定である。

[吉田 保雄 会長]

- ・とれのさと、道の駅は観光客の増加でまさに「潤う場所」であると思う。ただし、その場では売れるが、次の販売につなげるための誘導や輸送手段などをしっかりと備えておくことが更なる売り上げの増につながるポイントだと思う。
- ・今後は、物産についても重点的に取り組んでいく必要があり、計画の中に反映していくことの共通認識が出来たと思う。

[吉田 和彦 副会長]

- ・北海道貿易物産振興会では、全国から百貨店等のバイヤーを呼んだ商談会を毎年開催しており、道の駅としても積極的に参加していきたいと考えている。良いものであれば、全国のバイヤーは必ず見てくれるはず。物が売れていく、知られていくと同時に石狩に視点が向いてくる。当然、観光にもつながっていくことになる。
- ・生産者の収入をいかに拡大させていくか、そのために、6次化は、進めて行くべきである。

[事務局 百井部長]

- ・行政でつくる計画は、今の時代の情勢にあった営業戦略や広告戦略などに「トライ」するものまではなかなか踏み込めていない。委員からのご意見は非常に興味深い。
- ・現状で満足している生産者の意識を変えるような成功事例もあっても良いと思うが、お話を頂戴できないか。ご意見をいただくとありがたい。

[尾山 忠洋 委員]

- ・北海道貿易物産振興会の商談会で、JA女性部がつくったトマトジュースを札幌駅のどさんこプラザに持ち込んだことがあり、交渉の末、販売してもらえることとなったが、農家の片手間で作っていることから生産量の確保（少なさ）が課題となった。
- ・「連絡調整会議」の中で、横軸を一本にしていかなければならないと感じた。

[吉田 和彦 副会長]

- ・観光も物産もマーケティングが重要。前述のケースは、生産量を増やすかブランド化

するという選択肢もある。需要と供給の調整が必要である。(価格弾性値)

- ・この先、地域の人口が減少し、商売の規模も縮小していくなか、どうやって稼いでいったらよいか。気付いてくれた人をつかまえて成功させる、いわゆる「勝ち組を育てる」という取り組みも今後は必要である。努力した人は報われるという意識を醸成していくことが重要である。

報告どおりの承認で異議なし

[事務局 板谷 課長]

- ・産業振興関連計画4計画の連絡調整会議に当検討会から2名を参画させたいが、他計画との関連もあることから、会長と事務局に一任していただいでよろしいか。

異議なし

5 第1次石狩市観光振興計画の成果について

事務局より資料5を基に説明。

報告どおりの承認で異議なし

6 第2次石狩市観光振興計画の具体的な策定について

事務局より資料6をもとに説明。

[吉田 和彦 副会長]

- ・石狩のキラークンテンツは何なのかを考え、5年間で売り込んでいく必要がある。例えば、浜益はユーカラ(アイヌ民族の叙事詩)の発祥の地であったり、市内には様々なコンテンツが存在する。

[吉田 保雄 会長]

- ・石狩はサケのまちだと思う。近年では、石狩鍋のミラノ万博で紹介されたり、家庭で本格的な味が楽しめるオリジナル味噌の制作なども行っている。さらに、平成27年からは江戸幕府への献上品ともなっていた「寒塩引」を当時の製法そのままに製造・販売している。
- ・素材はあるのだが、うまくPRできていないという指摘はよくいただいている。

[吉田 和彦 副会長]

- ・物産だと自宅に持って帰ることができるのが利点。石狩市は国内で始めて缶詰工場が設置されたことや復刻版のサケの缶詰を販売している会社もある。
- ・アキアジ祭りは道内でたくさん開催されており、石狩のサケ祭りならではのコンテン

ツが必要。鼻曲がりのサケがくるとか明治時代からサケの孵化をしているとか様々な要素を合わせて、魅せ方を工夫することも大事であり、この5年間で発掘しながら磨けば面白いものができると思う。

[事務局 百井部長]

- ・これまでの「石狩ブランド」は、いろいろな物があった。先日、JAとの話の中で、例えば、「夕張メロン」でいくか、石狩には「あれも、これもある」というやり方でいくか、どういう戦略をとるかが重要であるということを感じた。
- ・冒頭、「体系」を説明した中で、重点を設けてもう少し具体化していく、または、資金面も含め位置付けし、計画化することが良いのではないかと思っている。次回の検討会までに関係する部分について、ご意見いただければと思っている。

[吉田 和彦 副会長]

- ・計画の中でも重点的に取り組むものを設定することは賛成である。例えば、「海辺の魅力アップ」では、他地域のビーチからお客さんを取り込むくらいの取り組みをすべき。例えば、海外のビーチだと思わせる空間づくりやプライベートビーチのよう演出なども考えられる。また、市民の意識ともマッチしているかも考えながらつくり込む必要がある。

7 閉会

[事務局 板谷 課長]

- ・9月中に第2回検討会を開催したいと考えているが、確定次第、連絡させていただく。

(閉会:正午)

平成28年8月30日 議事録確定

石狩市観光振興計画検討会

会長 吉田保雄
